

I ペテロ2章1-10節 「教会の使命」

(はじめに)

- ・本日グレースシティの第1回目の信徒総会が行われます。そこで今回は「教会とは何か？」というテーマで聖書を学んできました。今日は最終回ですが、教会はいかなることを使命としているのでしょうか？教会の存在意義あるいは目的は何か？と言い換えてもよいでしょう。もし私たち一人一人が教会の使命について深く理解して自覚するようになるなら、個人的な人生にも生きがいを見出し、コミュニティライフにも活力をもって歩むことができます。
- ・なぜなら、皆さんが仕事をしているその会社の使命や仕事の意義を見出すときに、私たち個々人の役割や仕事の意味もはっきりと分かって、生きがいや喜びを感じながら仕事に取り組めるようになるのではないのでしょうか。それと似ています。今日の聖書は教会の使命について何と言っているでしょう。

【ペテロの手紙第一 2章1-10節】

- ・キリストのコミュニティ、神の家族である教会の使命の第1は、人々が福音のみことばによって成長し主の恵みを味わうことです。第2に、教会はこの世界に神の栄光をあらわすためにコミュニティとして築き上げられて、神の国のすばらしさをあらわすことを使命としています。そして3番目に、神がキリストによって成し遂げてくれたすばらしい福音を知らせます。成長、コミュニティ、宣教。

1. 福音による成長

- ・先ほど読んだ聖書の最初の部分では、クリスチャンの状態が「生まれたばかりの赤ちゃん」として比喩的に表現されています。つまり、私たちはキリストによって新しい人生を歩むことができることを意味しています。多くの人たちが「できることなら人生をやり直したい！」と思っているのではないのでしょうか。「こんなはずじゃなかった」と後悔しながら人生を歩むのはつらいことです。
- ・しかし聖書によれば、私たちはだれでも「生まれたばかりの乳飲み子のように」成長する可能性があります。失敗や挫折、痛みや悲しみに満ちた私たちにとって何と大きな励ましでしょうか！

2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

- ・確かにイエスも神の国に入ること、また救われることを「新しく生まれる」ことだと言っています。驚くべきことに、聖書の教師として人望の厚いニコデモというユダヤ人の指導者に対して、(彼はかなりの年を取っていたと思われるが) イエスは「人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」(ヨハネ3:3)と大胆に宣言しました。ニコデモはなかなか理解できなかったようですが…。
- ・それゆえ、イエスの共同体である教会とは、新しい人生を始めた神の子どもたち(赤ちゃん)が成長するために与えられた「魂のゆりかご」のようなものです。否むしろ教会は私たちにとって「母」のような存在なのです。生まれたばかりの赤ちゃんは、母親の胸に抱かれて乳を飲んで育ちます。そのように、皆さんは教会の懐に受け入れられ、守られ、人格的に成長していくのです。
- ・3世紀の古代教会の教父(牧師) キプリアヌスCyprianは次のように教会を母と呼んでいます。

教会は全地に豊かな枝をさしのべ、豊富に流れ出る河の賜物を広くかつ遠くにまで及ぼす。しかも、かしらは一つ、源は一つ、母は一つであり、それが多くの実を結んでまし加わっていくのである。この母なる教会の胎からわれわれは生まれその乳によって育ち、その息によって生かされている。…われわれを神のために保護し、その生んだ子らを御国に入れるのは彼女(キリストの妻)である。…教会を母に持たない者は、神を父とすることはできない。
She extends her branches over the whole earth in fruitful abundance; she extends her richly flowing streams far and wide; yet her head is one, and her source is one, and she is the one mother copious in the

教会とは何か (4)

results of her fruitfulness. By her womb we are born; by her milk we are nourished; by her spirit we are animated... She keeps us for God; she assigns the children whom she has created to the kingdom... He cannot have God as a father who does not have the Church as a mother.

そのように教会は、私たちが新しい人生において成長するように守り、養い、育てる母のようなコミュニティなのです。教会の使命の第1は、福音のみことばによって養い育てることです。

- ・それでは、神の子どもたちは何によって、どのように成長していくのでしょうか？まだまだ堅い食物を食べることのできない赤ちゃんにとって、お母さんのミルクは成長に必要なすべてのものを満たす完璧な栄養です。私たちにも、人格的な成長と成熟のために純粋な霊的な養いが必要なのです。
- ・2節には「純粋なみことばの乳」とありますが、1章後半（23-25節）を見るとこれが何を意味しているのか一目瞭然です。私たちが成長させ、霊的リニューアルをもたらす純粋な霊的なミルクとは、キリストの福音のことなのです。

1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。 24 「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。 25 しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。(1ペテロ1:23-25)

- ・しかし、ペテロはあえて2節では「ことば」とは言いませんでした。なぜなら、純粋な霊的な乳とは単なる聖書の学びや研究の知識とは異なるからです。ペテロは詩的な表現で「味わう」とも書きました。主イエス・キリストの恵みとあわれみを、食べ物を食べるように心で感じて、人生において経験することを強調しています。 2:3 あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。
- ・それゆえ、生き生きとした人生の変革や成長は、あなたが人生に働く主の恵みをどれほど深く、頻繁に味わう（信じる）のか、その程度に応じてもたらされます。あなたのために十字架で死んで、3日目に復活したキリストの赦しの恵みと愛を思いめぐらしましょう。そしてその大きな恵みのゆえに、苦々しい思いからではなく、キリストの愛によって暖められた心から、正直に罪を悔い改めましょう。
- ・ぜひ皆さんに、神のことばである聖書を学びながらキリストの福音を聞きとり、主イエスがいかに恵みとあわれみに満ちているのかを経験していただきたいのです。そのためにグレースシティで最も身近に提供しているコミュニティ・グループに参加してください。

2. コミュニティの必要性

- ・ところで、今日の聖書を見ると、共同体を意味している比喩的表現がたくさん出てきます。例えば5節には「あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい」とあります。明らかに「霊の家」とはエルサレムの「神殿」を想像させる言い回しです。9節でも、教会のことが「選ばれた種族、王である祭司（あるいは祭司の王国）、聖なる国民、神の所有とされた民…神の民」と言われています。
- ・なぜこのような教会というコミュニティが必要なのでしょうか？それは、コミュニティなしには、神のすばらしさをあらわし、「神に喜ばれる霊のいけにえをささげる」（5節）ことはできないからです。そもそも神ご自身が父、子、聖霊なる三位一体の神です。神は永遠に一体的で完璧な愛のコミュニティなのです。聖書の中にもそのものズバリ「神は愛です！」とされています。愛は一人きりではあらわすことも、味わうこともできません。関係の中で初めて意味を持つからです。
- ・ですから、神ご自身がどんな方であり、どのように素晴らしいことをイエスによって成し遂げてくださったのかを、この世界の中であらわすには、神がコミュニティであるように教会というコミュニティがどうしても必要なのです。それゆえ、教会の使命の第2は、教会というコミュニティを通して神のすばらしさをあらわすことです。C. S. ルイスは次のように書いています。

教会とは何か (4)

神はご自身のほんとうの姿をただ真実の人間にのみ示したもう。それは、個々の善良な人々ばかりでなく、お互いに結ばれて一団となり、お互いに愛し合い、お互いに助け合い、お互いに神を示したもう人たちにも、神はご自身を現わしたもうという意味である。… 神について知るのに本当にふさわしい道具はただ一つ、それはお互いに神を待ち望んでいるクリスチャンの全集団（コミュニティ）である。愛によって結ばれたクリスチャンの集団は、いわばこの科学（神学）の技術的装置—実験室の設備である。（「キリスト教の精髓」 pp.254-5）

God can show Himself as He really is only to real men. And that means not simply to men who are individually good, but to men who are united together in a body, loving one another, helping one another, showing Him to one another. …Consequently, the one really adequate instrument for learning about God, is the whole Christian community, waiting for Him together. Christian brotherhood is, so to speak, the technical equipment for this science—the laboratory outfit

- ・しかし、もしかしたら皆さんはこのような教会のコミュニティに対して懐疑的かもしれません。というのも、現実的には人生を励まし支えてくれるよりも、人をのけものにしたり、排除したり、敵対したりすることさえあるからです。怒りや憎しみ、ねたみや偽り、ごまかしや偽善も蔓延しています。
- ・今も実際にそういった葛藤の中にいらっしゃる方もいるかもしれません。むしろ、コミュニティや人間関係には心を許さないで、（あるいは煩わされしないで）絶対的な神様にのみ心を向けた方がいいんじゃないか、というあり方も説得力があるかもしれません。

- ・しかし、もう一度聖書に目を向けてみましょう。ここには、コミュニティ作りのためになくなくてはならない重要な礎石／土台が置かれているのが分かります。それが教会の要です。4-5節

2:4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。 5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

- ・教会というコミュニティ作りのためには、主イエス・キリストが不可欠です。私たちの力や知恵、やり方やシステムに頼ってはいけません。十字架のイエス・キリストを通して、福音が与える赦しといやし、悔い改めと回復によって、コミュニティに貢献し結び合わされなさいという意味です。
- ・そして特に強調したいことは、どんなコミュニティも完全なものではなく、過ちと失敗、無理解や対立、プライドやねたみ、臆病や偽善が生じます。だからこそ、主イエス・キリストという礎石なしでは、やっていくことができません。イエスこそがあらゆる問題に赦しと解決、回復を与えるからです。
- ・これを書いているペテロは、自分自身の経験を思い起こしながら書いたことでしょう。ペテロ自身が主イエスを裏切り、イエスなど知らないと3度も繰り返して見捨てたその張本人なのです。しかしイエスは、このような裏切りによってもたらされた十字架の苦しみと死を引き受けました。イエスはご自分の命を犠牲にしてまで、裏切り者のペテロを愛し、受け入れ、赦したのです。
- ・私たちにも、イエスが与える赦しとイエスの愛の満ちるコミュニティが必要なのです。

少し前にたいへん興味深いTED TALKを見ました。Johann Hariという人による「依存症—間違いだらけの常識」というタイトルのトークです。彼によれば薬物やドラッグによる依存症は、隔離したり罰を与えたりするような今までの方法では解決しません。依存症addictionの極端はしらふではなく、つながりconnectionであるからです。依存症の人にはこう言ってあげるのです。「あなたとずっと深く関わり合いたい、何かをやっていてもそうでなくても大切に思っている、素面でもそうじゃなくても大切な人であることには変わりはない。必要なときには駆けつけて一緒にいてあげる、愛する人を一人ぼっちにしたくない、孤独に感じてほしくない」薬物問題と戦うのではなく愛することが重要であり、核心部分は「君は一人じゃない、愛されている！」というメッセージです。

- ・教会はこの世界にイエスによる愛と赦しと回復を分かち合うコミュニティを提供して、神のすばらしさをあらわすのです。

3. 福音の宣教

- ・そういうわけで皆さん、真実のコミュニティを経験したいなら、ぜひ主イエスのもとに来てください。そして、教会の使命の第3は、神がイエスによって成し遂げてくれたすばらしい働きを、すべての人々が共有できるように、キリストの良い知らせを宣べ伝えることです。9節。

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。
- ・私たち人間にとって究極的な3つの問いがあります。それにどのように答えるかによって、私たちの人生が決まると言っても過言ではありません。それは、私たちはどこから来たのか？私たちは何者か？私たちはどこへ行くのか？という3つの質問です。
 - ・実はこの3つの問いはポール・ゴーガンという画家が描いたとても有名で非常に大きな作品のタイトルでもあります。彼は後に非常に有名になるこのタイトルの絵を描いた時に、非常に落ち込んでおり自殺を考えていました。画家として成功せずにお金もなく、妻ともすでに離婚していましたし、おまけに愛する娘も失って、失意のどん底にあるときに友人に手紙を書いたのです。「死ぬ前に…かねてから頭にあった大画面の絵を描きたいと思った」と。彼はこの3つの問いにどう答えたのでしょうか。
- ・皆さんはこの3つの問いにどう答えますか？私たちの起源（どこから来たのか）、アイデンティティ（何者か）、そして将来のヴィジョン（どこに行くのか）についてです。キリスト教はこれらの問いに明確に答えて、皆さんの人生に役に立ちます。2章9節もこの3つの問いに答えることができますでしょう。
- ・私たちは神のもとから来たものです。神のすばらしいみわざによって生かされ、作り変えられ、神に愛されているものです。私たちがたとえ今どのようなものであれ、自分としては上手くいっていない人生を歩んでいるとしても、あなたの存在の起源は神にあり、神のみ手の中に守られています。
- ・何者かというアイデンティティには「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。」と定義されています。これらのフレーズのすべてを詳しくお話しする時間はありませんが、もし要約させていただければ、私たちは世界の王である神に愛されている王子であり王女なのです。痛んでいるあなたのアイデンティティが回復するなら、あなたの人生も変えられます。
- ・そしてこのアイデンティティから新しい人生のヴィジョンを見出すのです。やみの中から光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを宣べ伝えることは、クリスチャンと教会の使命です。もしこのヴィジョンと使命を見失うなら、教会は活力を失い、あなたの人生は味気のないものになってしまうに違いありません。キリストにあるアイデンティティは、確かな希望と活力の源です。そして宣教のヴィジョンは、あなたの人生を意義深いものにして、教会のすべての働きの推進力となります。
 - ・ぼくが尊敬する一人の長老は昨年105歳で天に召されました。彼の肩書きは哲学者でしたが、常々自分の第1の仕事は長老だと言っていました。90歳のころに奥さまを亡くされましたが、それでも彼の気力は衰えずに、月に1回は自宅でバイブルスタディを導きました。体力が衰えてケア施設に入っていた頃、ぼくは東京で教会開拓をすることを話しに行きました。彼はその話を聞きながら自分の足を軽くたたいて、「自分が元気なら、先生と一緒に東京の開拓伝道について行きたい」と言われ、ぼくは大いに励まされました。
- ・皆さんにもう一度グレースシティのヴィジョンを思い起こしていただきたいと思います。

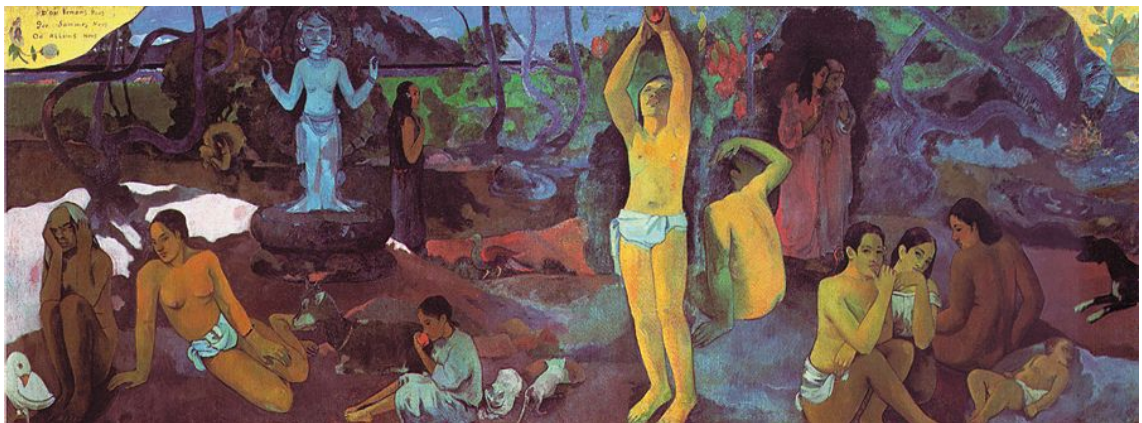
キリストの教会であるグレースシティは、東京に恵みの福音を満たすことによって神の栄光をあらわします。そのために個人的な人生の変革、コミュニティの回復、都市の刷新、社会的な必要のために仕えます。（一言で言えば、「東京に福音を満たします！」）
- ・宣教を余り難しく考えすぎないようにしましょう。あなたがおいしく味わった食べ物やレストランを

教会とは何か (4)

友だちに紹介するのに似ています。宣教のヴィジョンは、必ずあなたの人生に活力を与え、喜びをもたらします。

「われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか」(1897-8)

ウジェーヌ・アンリ・ポール・ゴーギャン (1848-1903)



【ペテロの手紙第一 2章1-10節】

2:1 ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、

2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

2:3 あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。

2:4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。

2:5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

2:6 なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」

2:7 したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった」のであって、

2:8 「つまずきの石、妨げの岩」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからです。またそうなるように定められていたのです。

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

2:10 あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。